

## 加古川中流圏域河川整備計画 西脇・多可ブロック第四回懇話会

### ＜ 議 事 要 旨 ＞

- 日 時 平成24年11月8日(木) 13:30～16:30  
 □場 所 多可町中央公民館 大会議室  
 □出席者 24名(委員11名、事務局10名、関係機関3名、一般傍聴0名)

	氏 名	所属・役職等	出欠
経験者 学識	こばやし たくろう 小林 拓郎	西脇市動植物生態調査研究グループ リーダー	○
	いのうえ まさやす 井上 正康	多可町立杉原紙研究所 技術顧問	○
地場産業	なしき しずお 梨木 静夫	加古川漁業協同組合 代表理事組合長	○
	きし なおと 来住 尚登	兵庫県繊維染色工業協同組合 理事長	○
	なかがわ あきのり 中川 明紀	播州釣針協同組合 理事長	○
	いけだ よしひこ 池田 順彦	北はりま森林組合 代表理事組合長	○
地元	かたおか よしろう 片岡 義郎	西脇市日野地区在住	○
	きのうち よしひろ 木野内 順宏	西脇市比延地区在住	○
	うちし まさあき 内橋 昌昭	西脇市芳田地区在住	○
	ふじわら ひとし 藤原 一志	西脇市黒田庄地区在住	○
	あんどう まつこ 安藤 松子	多可郡多可町加美区在住	—
	かどわき きょうぞう 門脇 教蔵	多可郡多可町八千代区在住	○

敬称略 順不同)

	氏 名	所属・役職等	出欠
事 務 局	木村 浩之	県土整備部 土木局 河川整備課 課長補佐兼治水係長	○
	出見 恭行	県土整備部 土木局 河川整備課 治水係 主査	○
	西倉 洋一	北播磨県民局 加東土木事務所 多可事業所 所長	○
	栗山 研一	北播磨県民局 加東土木事務所 多可事業所 課長	○
	山口 一哉	北播磨県民局 加東土木事務所 河川砂防課 課長	○
	関 正造	北播磨県民局 加東土木事務所 河川砂防課 課長補佐	○
	横山 耕	北播磨県民局 加東土木事務所 復興事業課 課長	○
	久志 英夫	北播磨県民局 加東土木事務所 復興事業課 課長補佐	○
	野邊 正彦	北播磨県民局 加東土木事務所 多可事業所 課長補佐	○
	後藤 和則	北播磨県民局 加東土木事務所 多可事業所 職員	○

(敬称略 順不同)

	氏 名	所属・役職等	出欠
関 係 者	真鍋 俊哉	西脇市 建設経済部 地域整備課 主幹	○
	横関 泰孝	多可町 技監	○
	渡邊 啓三	多可町 建設課 課長	○

(敬称略 順不同)

	氏名・所属・役職等
事 務 局 補 助	田淵昌之、牧俊行、大井清美 ((株) 建設技術研究所)

---

□議事概要

1. 開会挨拶

: 加東土木事務所多可事業所 西倉所長

2. 出席者の紹介

(1) 懇話会委員の紹介：各委員 自己紹介

(2) 事務局の紹介

3. 前回の懇談会・地域ブロック懇話会の概要 : 事務局説明

4. 議事 1 (河川整備計画の目標に関する事項)

(1) 河川整備計画の目標に関する事項 (第 1 章第 3 節～第 6 節) : 事務局説明

(2) 討議

1) 河川整備計画の目標について

- ・ 資料 3 の 9 ページ (素案記載箇所 14 ページ) の表に、距離の短い比延谷川が入っているのに、距離が長い畑谷川が入っていないのはなぜか。  
→ 資料が手元にないため、後日確認する。**(事務局)**
- ・ 杉原川は、昭和 58 年の洪水規模を目標流量に設定するということであるが、日野地区の小坂から羽安町までの山は全部松が枯れている状況である。保水力の低下によって流量が増える恐れはないのか、地域住民も心配している。それから、資料には魚類や水生生物の移動障害や生態系の分断などについて書かれているが、一昨年に災害復旧してもらった亀ヶ井堰は、魚道等が追加されることなく現況復旧された。総合的に政策課題に取り組む必要があると思う。それとも必要性がないと判断されたのか、大水の際には遡上できると判断したのか、杉原川の整備検討委員会で報告する必要があるので教えてほしい。  
→ 1 点目については、今年の 4 月に総合治水条例が施行され、森林の雨水浸透や滞留の確保などの流域対策、減災対策等を含めた総合治水に今後取り組むことを考えている。2 点目については、改修の際には必要に応じて魚道設置等も検討することとなっているが、亀ヶ井堰は河川構造物ではなく農業施設の災害復旧であり、井堰の管理者や受益者からの費用と国の補助金にて農業者が主体となって工事を行うため、現形復旧が大前提となる。魚道を設置するとなると、井堰管理者等に新たな費用が発生してしまう。**(事務局)**
- ・ 加古川水系の井堰は、基本的には絶対に魚道が必要ということを前提としてほしい。魚道の設計に当たっては、自然がまだ残っていた頃の河川を知っている熟年技術者の意見を反映したものにしてほしい。他の河川で業者が採石権をとって川砂を採取しているのを見たが、工事による泥水が魚に与える影響は少ないので、堆積土砂撤去の手法として考えてはどうか。河川整備に当たっては、カーブの外側を深くして大きな石はその底を流れるようにするなど、自然の川の形態や石の流れ方に配慮した整備とすべきだ。カメラ撮影等で石の流れ方等を検証してはどうか。加古川の釣り人が激減している中、この先魚がいなくならないよう、魚道や水質についてもちゃんと考えてほしい。
- ・ 小野市市場橋下流の工事に立ち会ったが、事前にたくさんの魚を工事区間から移動させ

---

ていた。最近では、国交省が厳しく指導しているのか、魚を殺さないように移動させて工事しているようである。

- ・ 和歌山の災害のように、最近、想定外がすぐに発生する。それを考えると平成 16 年 10 月の洪水規模で本当に良いのか。もう少し基準をあげた方が良いのではないか。それと、美しく安全で利用しやすい川づくりの推進、水質改善等が書かれているが、具体的な場所や方法があれば教えてほしい。また、流水の正常な機能の維持では、住民の協力のもととあるが、具体的に住民は何をすればよいのか。
- 今議論いただいているのは、当面 2、30 年の工事に対する目標であり、その上位計画となる基本方針では 100 年に 1 回程度の雨に対応する将来目標を掲げている。昭和 58 年の洪水が最終目標というわけではなく、下流とのバランス等を踏まえた第一弾のステップであり、順番に徐々にステップアップさせていきたい。流水の正常な機能の維持は、河川法に記述があり、治水、利水、生物環境など、全ての生き物、利用者にとって最低限必要な流量は確保し、環境がまるっきり変わるような工事をしないという意味を込めて記述した。水質保全は、基準と比べると現況は低い（良い）値であり、今の状態を保っていかうということで記述している。**（事務局）**
- ・ 特定外来生物に関して、何かニュース等がないか。去年、野村でカミツキガメがいたと聞いた。
  - ・ ブラックバスやブルーギルが増えたのは確かで、釣り人口も圧倒的に多い。魚への影響からいうと、ウ（鵜）の方が大きいと思う。アユの稚魚を放流しても、ほとんど食べられているのではないかと、というような状況である。
  - ・ 鹿野の橋の下で、大きなカメを子供がつかまえた。昔いたドロガメではなく、ミドリガメと思われるが、非常に多く繁殖していて、噛みつくため危険だと感じた。また、さきほど魚道の問題が出てきたが、農業関係如何に関わらず、河川の全ての工事において、目標に沿って進めていくほうが良いと思う。それと、加古川には多くの石や砂が流れてくる。特に中郷橋付近には多量の砂が堆積しているため、できれば河川の土砂撤去も合わせてお願いしたい。

## 5. 議事 2（河川の整備と実施に関する事項）

### （1）河川の整備と実施に関する事項（第 2 章第 1 節～第 3 節）：事務局説明

#### （2）討議

##### 1) 河川の整備と実施に関する事項について

- ・ 河川工事は下流から実施すると何度も説明があったが、野間川、篠山川の下流というのは加古川から見ると上流にあたる。これらの河川の下流の工事を行うとその影響は加古川に出てくる。地域住民も洪水には敏感になっているため、工事の際には事前に連絡してほしい。それと、渇水時には雨水を再利用することをもっと記載してはどうか。地域では雨水を貯めて利用しているところもある。
- 雨水の利用や貯水については、総合治水条例の中で検討していきたい。**（事務局）**
- ・ 40 キロを超える非常に長い区間だが、30 年で整備していく具体的なスケジュールはあるのか。あるいは地域で整備検討委員会等を立ち上げて引き続いて検討するのか。それか

---

ら、川と住民との間には長い歴史の経過があり、川の恐ろしさも住民が一番知っている。湧水を飲料水にしたこと、素潜りで魚をつかまえたこと、その水が冷たかったこと、ウナギやナマズやギンタ等の魚がたくさんいたこと、そういったことを地域住民と協力しながら次世代に引き継いで行く必要があると思う。地域住民の安心のため、杉原川の災害復旧は早く進めてほしいが、郷瀬の地蔵一本桜の保全活動のように、将来の整備をどうやって地域住民と進めていくかについても検討をお願いしたい。

→ 杉原川は、区間的には結構長い延長であるが、流下能力が足りずに改修が必要であるところが部分部分であり、西脇市街地のように長い区間を全面的に改修するわけではない。延長や箇所は、県の投資規模から選定している。**(事務局)**

・ 流下能力が足りない箇所のみ部分的な改修は、私たちの見解では緊急対応的なものである。日野地区のまちづくり計画書の中で、杉原川との共生と整備として、例えば市原の竹やぶを堤防にするなどを地域で検討している。それらは考慮されないということか。

→ それらは治水の話プラスアルファの環境整備の部分である。拠点的に川と人との触れ合いの場を創出するなど、環境整備と一緒にやっていくというのは変わっていないが、改修とは別の話である。**(事務局)**

・ 杉原川の支流にある堰堤には、去年までの大雨で土砂が堆積しているところがたくさんある。将来、これらの土砂が杉原川に一度に流れてくることが考えられるので、土砂の撤去を希望したい。また、水質については、科学的にきれいになっているのは分かるが、山の形態が落葉樹から針葉樹に変わりアルカリ性の成分が増えているなど、山との関係を含めて根本的な水の質も考えることが必要だと思う。

→ 砂防堰堤は、土がたまると勾配が緩くなり、土砂の流出を抑える役割があるので、たまっている状態で機能している。ただし、川の中に堆積している土砂は、パトロール等を実施し、撤去していきたいと思う。**(事務局)**

・ 治山治水と言われるように、山と川は密接な関係がある。木を切ったまま置いておくと、最近よくある集中豪雨などで流木となり、川に詰まって大きな被害を出してしまう。このような想定外の災害が起こることを絶えず頭に置く必要があると思う。また、手入れが遅れている山が多いので、木材不況で厳しい状況ではあるが、災害に強い森づくりなど、間伐とそのため道のづくりなどの森林整備をしっかりと行うことが重要。それが保水力を高め、大洪水を防ぐということにつながる。そういった意味で森林整備を日ごろから行っている。

・ 染色組合のうち、平成 16 年の水害で 4 社が甚大な被害を受け、その傷がもとで 1 社が今年倒産した。平成 23 年 9 月の水害では、上流にある染色工場 3 社が被災し、この時も長期の操業停止という事態に追い込まれた。今後、できるだけこういう事態にならないように事業を進めていただきたい。堤防をつくるだけではなかなか難しいと思うので、遊水地などトータルで政策を進めてほしい。それから、資料 7 の 69 ページに、杉原川の沖田井堰について、改築及び魚道整備の計画が書かれているが、具体的に決まっているのか。また、改修の際は事前に周辺住民に相談いただけるのか。

→ 具体的な時期等は決まっていないが、改修となれば早い時期と思う。またそのときになれば相談させていただきたい。**(事務局)**

・ 資料 3 の最終ページにある板波橋における BOD だが、これは水中に含む酸素量のこと

---

なのか。前回お願いしたのは、最近水の中に窒素、リン酸、カリという栄養分が入っており、それらが魚や水生昆虫に悪影響を与えるということでデータ化をお願いした。水中のアンモニアも魚には結構毒である。こういう機会なので、県の水産試験場で、最近の水質データに基づく水槽と、2、30年前のデータに基づく水槽とを作って、一定期間、金魚等を放してデータをとっていただければ、問題が出てくるかもしれない。魚が減ったのは、河川改修が第一の原因だとは思いますが、その他の原因も突きとめていただければと思う。

→ BODは、水中にある有機物を生物が分解するときに必要な酸素量。水の汚れを端的にあらわす指標として一般的に使われているものである。経年変化で調べるのであれば、やはりこのBODという指標となる。下水が整備され、BODの数値が下がり、きれいになったけれど、生物が減っているということについての関連づけは難しい。農薬等をまかなかった頃に田んぼでよく見たゲンゴロウやタガメも今ではほとんど見ない。こういった環境自体が変化していることもあり、川以外の色々な要因があると思われる。**(事務局)**

- ・ 圃場整備の結果、栄養分を含んだ排水が、水量の減った加古川へ直接入ってくるのが影響していると思われるので、公表しなくても良いので一度水質を調べてもらいたい。
- ・ 今言われているようなことも一理あるが、山の問題も含めて色々なものが変わってきているため、そのような調査は難しいし、原因は分からないと思う。水質調査は西脇市がしているので聞いてみてはどうか。
- ・ 川の水が豊富にあればもっと自然浄化ができる。やはり山をもっと自然林にしていき、保水力を高めて徐々に流れるようにしなければ、いつまでも同じである。
- ・ 非常に難しい問題である。山の問題、田んぼの問題、生き物の問題など各省庁が横の連絡をしっかりとっていかないと、これらは解決しないと思う。川では横断構造物があると流下を妨げるといいますが、河川整備はその逆で横断的連携が重要だ。
- ・ 山の問題に関連して。今、黒田庄の門柳川水系で、サントリーが50年計画の大きな事業（水源涵養活動）を行っており、大きく山を変えている。一度見てもらおうと良い。例えば台風で倒れた倒木は、そのままにせずみんなで管理したら、山の水ももっと吸い込まれ、水も変わってくると思う。

## 2) その他（意見・要望）

- ・ 工事発注する前には、今まで通りに漁協へ説明に来てくれるのか。

→ 年に何回かに分けて説明している。最近発注した中で、説明が前後しているものがあるため、改めて説明に伺う。**(事務局)**

## 6. 議事3（今後の予定）

### (1) 今後の予定：事務局説明

### (2) 討議

- ・ スケジュールはこのとおりだと思う。河川整備は非常にお金がかかる事業で、私も6年前にお願いしたことが今頃になってできるかできないか、という状況である。今回も、実現できなかったら何もならないので、今後、この懇談会や行政当局のトップを含めて十分に取り組んでいかなければならない。そのためには、陳情や住民を巻き込んだ形でやってい

---

かないと、なかなか進まないように思うので、その辺もお願いしたい。

7. 閉会挨拶

: 県土整備部土木局河川整備課 木村課長補佐兼治水係長  
以上